

新潟県の農林水産業の概要

特徴・取組

新潟県は、本州の日本海沿岸のほぼ中央部に位置し、東西に山々がそびえ、信濃川や阿賀野川などの河川が日本海にそそぎ、広大で肥沃な平坦地を形作り、全国有数の食料供給基地を形成している。また、海岸線は非常に長く、砂丘が発達しているところも多くある。冬は多雪であり、特に魚沼や上中越地方の山間部は豪雪地帯となっている。

新潟県には、世界的に注目される技術やトップシェアを誇るものづくり企業が多くあり、出荷額では金属洋食器、石油ストーブ、米菓などが全国1位となっている。

耕地面積は北海道に次ぐ第2位であり、米の生産量は全国1位。砂丘地から山間高冷地まで特色ある気候風土を活かして多種多様な野菜、果物、花きを生産。「新潟米」、「錦鯉」、「新潟産えだまめ」、「ルレクチェ」、「越後姫」、「にいがた和牛」、「のどぐろ」、「南蛮エビ」の8品目を「県推進ブランド品目」とし、県産農林水産物全体の付加価値を高める牽引役として、ブランド化を進めている。GIについては、現在、「くろさき茶豆」、「津南の雪下にんじん」、「大口れんこん」の3品目が登録されている。

新潟県では、「新潟県総合計画～住んでよし、訪れてよしの新潟県～」(令和4年4月改定)の下、「付加価値の高い持続可能な農林水産業の実現」を目指し、農業施策を展開している。

米政策については、「新潟米基本戦略」(令和3年3月改定)にて、令和6年度の米等産出額を1,585億円とするため、主食用米・非主食用米を合わせた米全体での需要拡大と、生産者所得の最大化のための多様な米づくりを推進していくこととしている。

また、食料自給率向上のため、小麦粉消費量の10%以上を米粉に置き換える運動、“にいがた発「R10プロジェクト」”を全国に向け発信しており、令和6年4月9日現在で、162社の企業が参加している。

園芸振興については、販売額1億円規模の園芸産地化を目指し、「新潟県園芸振興基本戦略」(令和4年8月改定)を策定し、機械化・施設化の支援、技術・経営指導、新技術の開発、担い手の確保など、取組を進めている。

主な農林水産物

水稻

「コシヒカリ」に代表されるお米の産地として全国的に有名。新品種の「新之助」は大粒でコクと甘みがある。
(収穫量全国1位)



西洋なし

「西洋なしの貴婦人」と讃えられる「ルレクチェ」は、芳醇な香りと濃厚な甘み、なめらかな食感が魅力。
(収穫量全国2位)



えだまめ

GI産品「くろさき茶豆」は、茶色の薄皮と、茹でたときから感じる独特な香りに加え、食感の良さが特徴。
(作付面積全国1位)



すいか

南魚沼の「八色(やいろ)西瓜」は、糖度が高くシャリ感のある西瓜。市場からは高評価を得ている。
(収穫量全国4位)



かき

種なしで食べやすく、とても甘く、ビタミンCもたっぷりの「おけさ柿」は、佐渡産が有名。
(収穫量全国6位)



いちご

新潟県オリジナル品種の「越後姫」は、冬は大粒で甘みが強く、春は糖度と酸味のバランスを楽しめる。
(作付面積全国21位)



花き(ゆり)

落ちついた外観の「スカシユリ」、豪華な「オリエンタル系ユリ」の両方ともほぼ通年出荷。
(出荷量全国2位)



食用ぎく

「かきのもと」は、花卉は赤紫色で、花びらをサッと茹でたおひたしが一般的な食べ方。
(収穫量全国5位)



きのこ

県独自開発品種のえのきたけ(雪ぼうし)、ぶなしめじ(越のわらべ)などが有名。
(生産量全国2位)



錦鯉(観賞用)

発祥の地であり、雪国の清らかな水と伝統の技法で育てられた独特な色調をもつ「泳ぐ宝石」。
(経営体数全国1位)



新潟県内の各地域における農林水産物

県全域

【農畜産物】

水稻：代表品種

①コシヒカリ ②こしいぶき ③新之助 ④越淡麗（こしたんれい）（酒米）

大豆、そば、アスパラガス、とう菜、だいこん、越後姫（いちご）、いちじく

【畜産物】

にいがた和牛、にいがた地鶏、鶏卵

【水産物】

南蛮エビ、ヤナギガレイ、ベニズワイガニ、マガレイ、アンコウ、ヤリイカ、マダラ、ノドグロ、タチウオ、マダイ、サヨリ、ミズダコ、マガキ、サザエ、ワカメ、サクラマス、アユ、

佐渡（さど）地域

【農産物】

〔野菜〕八幡芋（さといも）、ゴーヤ、トキ色メロン

〔果樹〕おけさ柿、佐渡りんご、みかん、ル レクチェ（西洋なし）

【水産物】

佐渡寒ブリ（ぶり）

中越（ちゅうえつ）地域

【農産物】

〔野菜〕えだまめ、越の紅（さつまいも）、にんにく、長岡巾着なす、山古志かぐらなんばん（とうがらし）、大口れんこん、黒十全（なす）、オータムポエム（アスパラ菜）、マコモダケ、つららなす、新道いも（さといも）、菜種、カリフラワー

〔果樹〕越の梅、おけさ柿、ル レクチェ（西洋なし）、ぶどう、もも、日本なし

〔花き〕かきのもと（食用菊）

【畜産物】

ガンジー牛乳

【水産物】

錦鯉（観賞用）

上越（じょうえつ）地域

【農産物】

〔野菜〕越（こし）の丸茄子（なす）、頸城（くびき）オクラ、ずいき、わさび、オータムポエム（アスパラ菜）、ひとくちまくわ、ばななかぼちゃ、正善寺みょうが、なますかぼちゃ、うど、高田シロウリ

下越（かえつ）地域

【農産物】

〔野菜〕やわ肌ねぎ、温海かぶ（赤かぶ）、くろさき茶豆（えだまめ）、とまと、やきなす、女池菜（とう菜）、じねんじょ、プチヴェール、れんこん、小玉すいか、ごぼう、ながいも、さといも、きゅうり、越後白なす、ザーサイ、そらまめ、スイートコーン、メロン

〔果樹〕おけさ柿、ル レクチェ（西洋なし）、ぶどう、もも、日本なし、さくらんぼ、くり

〔花き〕かきのもと（食用菊）、ゆり（切り花）、トルコギキョウ、アザレア、チューリップ

〔その他〕村上茶（日本茶）

【畜産物】

村上牛、新発田牛、村上あじわいポーク、しろねポーク、牛乳

【林産物】

雪ぼうし（えのきだけ）、菌床しいたけ、原木しいたけ

【水産物】

サケ

魚沼（うおぬま）地域

【農畜産物】

〔野菜〕八色（やいろ）西瓜（すいか）、八色っ娘（小玉すいか）、ズッキーニ、魚沼巾着なす、雪下にんじん、じねんじょ、かぐらなんばん（とうがらし）深雪なす、たらん芽、うるい、モロヘイヤ、八色菜、大崎菜、カルピタトマト（中玉トマト）、梵天丸（なす）、かぼちゃ、スイートコーン、メロン、カリフラワー

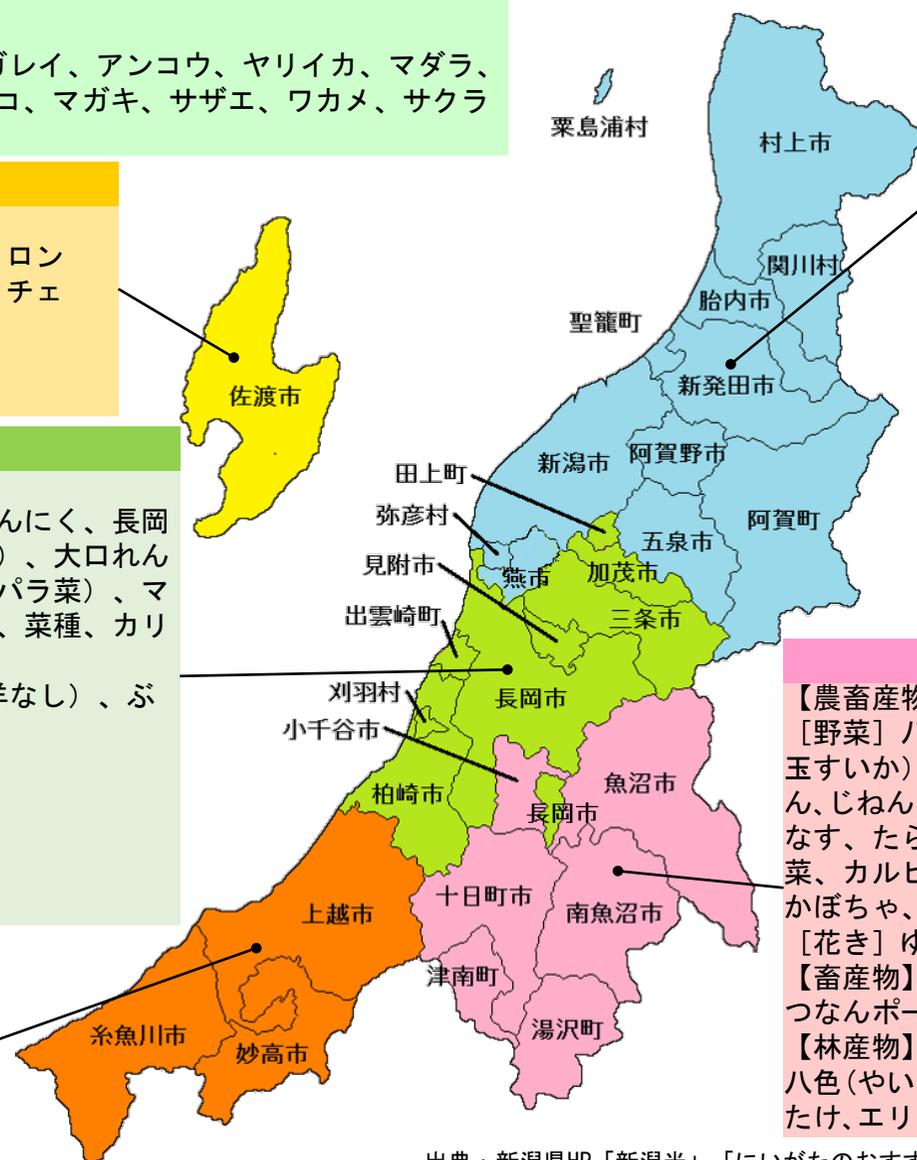
〔花き〕ゆり（切り花）

【畜産物】

つなんポーク、妻有ポーク

【林産物】

八色（やいろ）しいたけ、えのきたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、ひらたけ



新潟県の農業（1）

- ・耕地面積は16万7,200haで全国2位。うち田が14万8,500ha、畑が1万8,700ha。
- ・農業経営体数は4万3,502経営体で全国2位。うち法人経営体が1,218経営体で3位。
- ・認定農業者数は1万2,490経営体で全国2位。うち法人数が1,165法人で3位。

耕地面積

区分	新潟県	全国	全国順位
耕地面積	167,200 ha	4,297,000 ha	2
田	148,500 ha	2,335,000 ha	2
畑	18,700 ha	1,962,000 ha	22
普通畑	15,900 ha	1,120,000 ha	17
樹園地	2,080 ha	253,500 ha	35
牧草地	693 ha	589,000 ha	20
参考) 総土地面積	1,258,388 ha	37,797,539 ha	5

出典：「令和5年耕地面積(7月15日現在)」、「令和6年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区分	新潟県	全国	全国順位
荒廃農地面積	2,521 ha	253,217 ha	33

出典：「令和4年度の荒廃農地面積(令和5年3月31日現在)」

担い手への農地の集積状況

区分	新潟県	全国	全国順位
担い手への集積面積	111,420 ha	2,573,672 ha	2
集積率	66.4 %	59.5 %	7

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和4年度版)」

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和6年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「0」：単位に満たないもの(例:0.4t→0t)

「-」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区分	新潟県	全国	全国順位
農業経営体数	43,502 経営体	1,075,705 経営体	2
法人経営体	1,218 経営体	30,707 経営体	3
総農家数	62,556 戸	1,747,079 戸	5
販売農家	41,751 戸	1,027,892 戸	2
参考) 世帯総数	864,750 世帯	55,830,154 世帯	15
集落営農数	708 集落営農	14,204 集落営農	4

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和5年集落営農実態調査結果(令和5年2月1日現在)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区分	新潟県	全国	全国順位
基幹的農業従事者数	46,085 人	1,363,038 人	8
男	30,257 人	822,144 人	6
女	15,828 人	540,894 人	12
65歳以上	34,754 人	948,621 人	4
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	75.4 %	69.6 %	-
認定農業者数	12,490 経営体	219,846 経営体	2
法人数	1,165 法人	28,720 法人	3
参考) 総人口数	2,201,272 人	126,146,099 人	15

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和5年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

新潟県の農業（2）

- ・農業産出額は2,369億円で全国14位。うち米が1,319億円（55.7%）、野菜が323億円（13.6%）、畜産が525億円（22.2%）。
- ・農畜産物の生産状況は、水稲が全国1位、西洋なし、ゆりが2位、すいかが4位、かきが6位、大豆、えだまめが7位。
- ・農業生産関連事業は、農家民宿の年間販売（売上）金額が3億円で全国2位、経営体数は50経営体で4位。

農業産出額

区分	新潟県	全国	全国順位
農業産出額	2,369億円 (100.0)	90,015億円 (100.0)	14
米	1,319億円 (55.7)	13,946億円 (15.5)	1
麦類	0億円	647億円	27 *
雑穀	1億円	83億円	12
豆類	10億円	715億円	11
いも類	14億円	2,199億円	15
野菜	323億円 (13.6)	22,298億円 (24.8)	25
果実	99億円 (4.2)	9,232億円 (10.3)	22
花き	69億円	3,493億円	17
工芸農作物	5億円	1,551億円	22
その他作物	2億円	607億円	30 *
畜産	525億円 (22.2)	34,678億円 (38.5)	18
肉用牛	42億円	8,257億円	35
乳用牛	52億円	9,013億円	27
生乳	49億円	7,916億円	26
豚	131億円	6,713億円	17
鶏	300億円	9,716億円	11
鶏卵	218億円	5,638億円	11
ブロイラー	35億円	3,940億円	19 *
その他畜産物	0億円	979億円	40
加工農産物	2億円	565億円	21

出典：「令和4年生産農業所得統計」

注：()は農業産出額を100%とした割合である。

農畜産物の生産状況

区分	年次	新潟県	全国	全国順位
水稲	収穫量	R5 591,700 t	7,165,000 t	1
大豆	収穫量	R4 7,100 t	242,800 t	7 *
すいか	収穫量	R4 19,000 t	315,900 t	4
えだまめ	収穫量	R4 4,010 t	65,200 t	7
西洋なし	収穫量	R5 1,540 t	19,700 t	2
かき	収穫量	R5 8,920 t	186,600 t	6
ゆり	出荷量	R4 11,000 千本	109,900 千本	2
豚	飼養頭数	R5 157,900 頭	8,956,000 頭	18
鶏卵	生産量	R5 57,425 t	2,437,773 t	19
生乳	生産量	R5 34,814 t	7,298,933 t	28

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計」、「畜産物流通統計」、「牛乳乳製品統計」

農業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区分	新潟県	全国	全国順位	
農産加工	総額	11,305 百万円	1,012,818 百万円	28
	事業体数	880 事業体	28,980 事業体	9
農産物直売所	総額	20,131 百万円	1,087,897 百万円	22
	事業体数	650 事業体	22,380 事業体	10
観光農園	総額	699 百万円	35,999 百万円	20
	経営体数	70 経営体	5,090 経営体	19
農家民宿	総額	349 百万円	4,565 百万円	2 *
	経営体数	50 経営体	1,170 経営体	4 *
農家レストラン	総額	745 百万円	35,236 百万円	19 *
	事業体数	40 事業体	1,330 事業体	7 *

出典：「令和4年度6次産業化総合調査結果」

新 潟 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は440.5億円で全国3位。うち木材生産が21.2億円、栽培きのこ類生産が418.4億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国32位、ひらたけ、まいたけが全国1位、えのきたけが2位。

林業産出額

区 分	新 潟 県	全 国	全国順位
林業産出額	440.5 億円	5,806.6 億円	3
木材生産	21.2 億円	3,604.6 億円	30 *
栽培きのこ類生産	418.4 億円	2,079.5 億円	2

出典：「令和4年林業産出額」

林野面積

区 分	新 潟 県	全 国	全国順位
林野面積	802,757 ha	24,770,201 ha	7
国有林	224,780 ha	7,153,338 ha	8
民有林	577,977 ha	17,616,863 ha	5
人工林面積	161,634 ha	10,133,111 ha	27

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	新 潟 県	全 国	全国順位
林業経営体数	637 経営体	34,001 経営体	21
法人経営体	111 経営体	4,093 経営体	11

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	新 潟 県	全 国	全国順位
素材生産量	156 千m ³	22,082 千m ³	32 *
針葉樹	153 千m ³	20,386 千m ³	30
すぎ	153 千m ³	13,238 千m ³	21
広葉樹	3 千m ³	1,696 千m ³	38 *
生しいたけ	生産量 2,115 t	69,532 t	13
えのきたけ	生産量 19,005 t	126,321 t	2 *
ひらたけ	生産量 1,901 t	4,501 t	1 *
まいたけ	生産量 36,621 t	56,763 t	1 *

出典：「令和4年木材需給報告書」、「令和4年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	新 潟 県	全 国	全国順位
工場数	137 工場	3,804 工場	5
製材用素材の入荷があった工場数	137 工場	3,778 工場	5
国産材のみ	109 工場	3,054 工場	7
国産材と輸入材	25 工場	560 工場	6

出典：「令和4年木材需給報告書」

新潟県の漁業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は131億円で全国30位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のべにずわいがにが全国5位、海面養殖業のかき類が12位、内水面漁業のさけ類が3位。
- ・ 漁業生産関連事業は、漁家民宿の年間販売（売上）金額が2億円で全国9位、経営体数は40経営体で5位。

漁業産出額

区分	新潟県	全国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	131 億円	14,372 億円	30

出典：「令和4年漁業産出額」

漁業経営体数

区分	新潟県	全国	全国順位
海面漁業経営体数	1,338 経営体	79,067 経営体	23
内水面漁業経営体数	375 経営体	4,772 経営体	4

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁業就業者数

区分	新潟県	全国	全国順位
海面漁業就業者数	1,954 人	151,701 人	26
男	1,890 人	134,186 人	25
女	64 人	17,515 人	31

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

漁船隻数

区分	新潟県	全国	全国順位
漁船隻数	1,896 隻	132,201 隻	25
動力漁船	617 隻	69,920 隻	31

出典：「2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区分	新潟県	全国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	27,362 t	3,862,831 t	27 *
海面漁業漁獲量	26,020 t	2,950,992 t	22
かれい	460 t	35,541 t	12
べにずわいがに	1,525 t	12,345 t	5 *
海面養殖業収穫量	1,342 t	911,839 t	26 *
かき類	603 t	165,590 t	12 *
わかめ類	58 t	46,929 t	17 *
内水面漁業・養殖業生産量	499 t	54,115 t	16 *
内水面漁業漁獲量	324 t	22,612 t	6
さけ類	121 t	9,694 t	3
内水面養殖業収穫量	175 t	31,503 t	21 *
にじます	143 t	4,462 t	10 *

出典：「令和4年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区分	新潟県	全国	全国順位	
水産加工	総額	612 百万円	181,820 百万円	30 *
	事業体数	20 事業体	1,460 事業体	20 *
水産物直売所	総額	817 百万円	37,410 百万円	17 *
	事業体数	20 事業体	840 事業体	12 *
漁家民宿	総額	206 百万円	5,986 百万円	9 *
	経営体数	40 経営体	740 経営体	5 *
漁家レストラン	総額	132 百万円	11,598 百万円	20 *
	事業体数	10 事業体	420 事業体	9 *

出典：「令和4年度6次産業化総合調査」

新潟県の農林水産業の話題等

新潟県内での耕畜連携の取組

新潟県の酪農や肉用牛は、他県と比べ小規模な経営体が多く、また稲作が盛んで水稲栽培を前提とする農地利用意識が高く、自給飼料生産は限定的で輸入飼料への依存度が高かった。一方、稲作農家では、飼料米以外の飼料作物にはなじみがなく、稲WCSを認知していても興味を持たれることは少なかった。令和2年からの飼料価格高騰により畜産農家の国内産粗飼料への需要が高まる一方で、稲作農家では規模拡大が進み作業分散とコメに代わる転作作物の必要性が高まっていた。

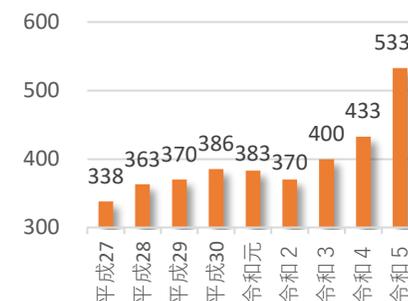
こうした中、①県地域振興局は、現地実証や研修会の開催、経営試算の提示や地域の実態に併せた各種対策の働きかけをし、②国（県拠点）は、稲作関係団体の勉強会等で稲作農家にとっての稲WCSのメリットを繰り返し説明した。また、③稲作農家の機械導入等を国庫事業や県単独補助事業で支援するとともに、④県・関係機関・国（県拠点）が連携し、畜産農家と稲作農家のマッチングを行った。結果、耕畜連携の取組が県内各地で始まり、稲WCSの作付面積が大幅に拡大した。

令和4年に酪農家と稲作農家が共同で立ち上げた「新発田コントラクター」では、稲WCSに加え飼料用とうもろこしや牧草の生産にも取り組み、酪農家の堆肥を圃場に還元している。同組織の取組は、各種マスメディアで繰り返し紹介され、さらに耕畜連携への関心を高めている。

新潟県酪農業協同組合連合会の調査によれば、畜産農家の国産飼料への需要は根強く、今後も耕畜連携の進展が見込まれる。



稲WCS収穫実演会（新潟地域振興局主催）の様子



新潟県内の稲WCS作付面積の推移 (単位 : ha)

新潟県産小麦の生産・消費拡大

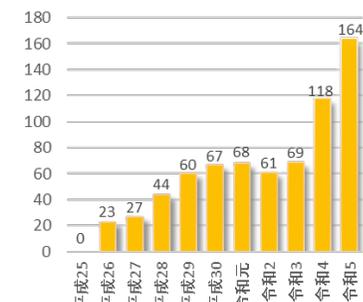
新潟県的小麦作付面積は、平成初期には約200haあったが、赤かび病の発生や平成5年の冷害後のコメの増産等の影響により、平成7年以降ほぼゼロで推移していた。こうした中、平成25年、県産小麦の復活を目指し、生産者、実需者（パン屋、製麺業者、製粉会社、醸造会社など）、JA、行政等が参加する「新潟小麦の会」が設立された。

「新潟小麦の会」では、品質や収量の向上を目指した勉強会や消費者との交流活動を行い、会員企業による県産小麦を使用した商品開発も進められた。特に栽培に関しては、農研機構中日本農業研究センター（新潟県上越市）が新潟に適した新品種（ゆきちから・夏黄金）を紹介するとともに、新潟県と協力してパン用小麦の栽培マニュアルを作成するなど、専門知識に基づく助言を行った。令和5年産からは、ケーキ・菓子に適した薄力粉の品種（ゆきはるか）の栽培も始まっている。

こうした取組の結果、県内での小麦の生産が徐々に拡大してきたが、特に令和4年以降大幅に拡大し、令和5年産は作付面積が164ha、収穫量が504tとなった。また、令和5年11月からは新潟県の学校給食会が使用する小麦粉にも新潟県産小麦が30%配合されている。県産小麦粉への需要は根強く、「新潟小麦の会」では引き続き小麦の作付拡大に取り組むこととしている。



ゆきちから：新潟市江南区



新潟県内の小麦作付面積の推移 (単位 : ha)